

## 「唾液」の役割について

城里町歯科医師会

「唾液」には、風邪薬にも使われる抗菌酵素リゾチーム、ラクトフェリンや感染予防に役立つIgA（アイ・ジー・エー）、発がん物質を抑制するペルオキシダーゼなどの強力な消毒作用と毒消しの効果が含まれています。今回は「唾液」の役割について、掘り下げて説明します。

### ■ 食事のたすけ

唾液により咀嚼、嚥下がしやすくなり、食べ物の味をよく感じることができます。また、熱いものや冷たいもの、辛いもの、すっぱいもの、魚の骨のような硬いものなどの刺激が直接伝わるのを和らげ、口の中が傷つくのを防止します。唾液が少なくなると、入れ歯もうまく機能しません。

### ■ 虫歯の予防

口の中のph（酸性の度合いを示す単位）が下がるのを和らげます。食べ物の大半は、酸性（アルカリ性のものはおいしくない）なので食事中や食後の口の中は酸性になり、歯の表面からミネラルが溶け出しています（もちろん顕微鏡レベルの話であって、これをもって歯が溶けていることにはなりません）。これを唾液中のミネラルが補っているのです（歯の再石灰化）。

### ■ 抗菌、酵素作用

唾液中には、リゾチームやラクトフェリンなどの抗菌物質、アミラーゼなどの消化酵素が含まれています。これらにより、口内の環境を整え、防衛機能が向上します。

1日に1～1.5リットル分泌される唾液ですが、その量は年齢が上がるにつれて減少します。唾液腺を刺激することで、分泌量は増えます。唾液腺を直接刺激（耳の下と下あごの内側）するのもいい方法ですが、おいしいものをよく噛んで楽しく食事ができたら、それが一番かと思えます。大きな口をあけて歌うカラオケやおしゃべりもいい刺激になるはずですよ。



### 城里町の文化財さんぽ(一三)

#### 町指定文化財(彫刻)

あくるおうめんぎようちようこく

#### 「悪路王面形彫刻」

指定年月日/昭和四八年一月二〇日

所在地/城里町高久 管理・所有者/鹿島神社



▲町指定文化財「悪路王面形彫刻」

「悪路王面形彫刻」は、高久鹿島神社の社宝として伝来してきたものです。無念の形相凄まじいこの面形の由来については諸説ありますが、桂村史では、「延暦年間（七八二～八〇六）、坂上田村麻呂将軍が蝦夷征伐の折、陸奥国平泉の達谷の窟（一説に下野達合窟）で蝦夷の首領アテルイ（悪路王）または高丸（悪路王）ともいわれている者を誅し、凱旋の途中この地を過ぎ、携えてきた首級を納めた。最初はミイラであったが、これを模型としたものと伝えられている』（ルビ補）と記されています。



▲光圀の修理銘

また、地元では、神社の西北百メートルにある休塚（安塚）を、「田村麻呂が軍を休めたところであり、アク

ラオウ（悪路王）の首を埋めたところ」と言い伝えられています。面形の製作年代は不明ですが、すでに元禄年間（一六八八～一七〇四）には傷みがひどかったらしく、水戸藩二代藩主徳川光圀（みつくに）によって修理が施されています。さらに一三二年後、八代藩主斉脩（なむら）が再び修理を行い、それぞれ面形と、面形を納める厨子の内部に修理銘を残しています。

現在、面形は茨城県立歴史館に寄託・保管されています。鹿島神社には、欠損部分を復元した精巧な複製の面形が納められ、毎年旧七月一〇日（今年八月二二日）の虫干しの神事で一般に公開されます。解説文/町文化財保護審議会会長小山映一 写真提供/茨城県立歴史館

問合せ 教育委員会事務局

☎ 029-1288-13135